

# シリーズ「下肢静脈瘤」①

## 下肢静脈瘤について

国立病院機構和歌山病院

心臓血管外科 畑田充俊

**\*下肢静脈瘤とは？**

下肢の静脈には血液が重力によって足先へ逆流しないように弁がついています。何らかの原因で

**\*治療法**

それらの弁が壊れると血液の逆流が起こり、うっ血が生じて血管の拡張や蛇行することによりコブができます。これが下肢静脈瘤です。長時間の立ち仕事の方、妊娠・出産後の方、高齢者の方、血縁者に下肢静脈瘤がいる方に多く発生します。

**\*下肢静脈瘤の歴史**

下肢静脈瘤に関する最も古い記述は紀元前1500年前のエジプトの文書であるパピルスにあり、「下肢にできる蛇のような膨張物」と書かれています。下肢静脈瘤に対する治療に関する記述は、紀元前5年頃の古代ローマの『医学論』という本に静脈瘤を熱した鉄器で焼灼するとあります。このように下肢静脈瘤は人類が関わってきた最も古い病気の一つで、3500年前に気付かれており、2000年前には治療を行っていたのです。

**\*下肢静脈瘤の症状**

足の静脈がコブ状になります。下肢が、かゆい・だるい・重い・疲れる・ほてるや、歩行時もしくは就寝中に、こむら返り(足がつる)といった症状があります。重症例では皮膚硬結・皮膚炎や

んだ静脈をすべて抜去するために、静脈瘤の再発率は低いですが、血管を抜去するために手術侵襲は高いです。

**\*血管内レーザー治療法**

血管内レーザー治療は、血液の逆流がある静脈内にレーザーファイバーを挿入し、血管にレーザー照射し静脈を閉塞させる治療法です。適応としては抜去術(ストリッピング術)とほぼ同じで、表在静脈に弁不全を有する一次性下肢静脈瘤が適応となります。レーザーファイバーを穿刺で挿入するために、低侵襲であり、美容的効果が高いと言った利点があります。

**抜去術(ストリッピング術)**

では出来なかった抗凝固療法・抗血小板療法中の患者や、高度肥満患者でも適応となります。術後に皮下出血や疼痛を認めることがありますが、約2〜3週間で改善します。

重篤な合併症としては、レーザー照射による血栓が深部静脈まで形成される深部静脈血栓症があります。0・1%以下と稀です。

血管内レーザー療法は約10年前より始められましたが、一昨年まで自費診療で行われていました。昨年からは保険適応となり、国立和歌山病院でも昨年8月より導入しました。

現在、症例は60例を重ねるまでになり、下肢静脈瘤に対する血管内レーザー焼灼術実施管理委員会認定の実施設、実施医、指導医となっております。